

科目名	生物活用	単位数	1 単位	学科・学年	畜産総合 科 2 年																																																
使用教科書	生物活用 実教	副教材等	プリント																																																		
学習目標	<p>農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことを通して、家畜の飼育と畜産経営に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 家畜の飼育と畜産経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。</p> <p>(2) 家畜の飼育と畜産経営について 課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う</p> <p>(3) 家畜の飼育と畜産経営 について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う</p>																																																				
学習評価	<p>○ 次の三つの観点に基づき、学習内容のまとまり（定期考査までを学習のひとまとまり）ごとに下の評価規準により評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。</p> <table border="1"> <tr> <td>①知識・技能</td> <td colspan="5">園芸や社会動物が人の健康にもたらす効用の体験や生物を活用した学習を通して人の発達や健康についての基礎的な知識と技術を体系的、系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。</td> </tr> <tr> <td>②思考・判断・表現</td> <td colspan="5">園芸や動物とのふれあいや飼育が健康管理増進につながるよう発展させ、生物活用に関する課題を発見し、科学的根拠などに基づいて創造的に解決している。</td> </tr> <tr> <td>③主体的に取り組む態度</td> <td colspan="5">生物活用について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。</td> </tr> </table>  <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法\観点</th> <th>①</th> <th>②</th> <th>③</th> <th>④</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学習態度</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>振り返りレポート</td> </tr> <tr> <td>ノート提出</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>学期に2回実施</td> </tr> <tr> <td>定期テスト</td> <td>—</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>定期考査</td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td>◎</td> <td>—</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>長期休業中に実施</td> </tr> </tbody> </table> <p>※表中の◎は観点の中でより重視するところです。</p> <p>定期考査、提出物（ノート、振り返りレポート）、出席状況、学習状況から総合的に評価します。</p>					①知識・技能	園芸や社会動物が人の健康にもたらす効用の体験や生物を活用した学習を通して人の発達や健康についての基礎的な知識と技術を体系的、系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。					②思考・判断・表現	園芸や動物とのふれあいや飼育が健康管理増進につながるよう発展させ、生物活用に関する課題を発見し、科学的根拠などに基づいて創造的に解決している。					③主体的に取り組む態度	生物活用について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。					評価方法\観点	①	②	③	④		学習態度	◎	◎	◎	◎	振り返りレポート	ノート提出	◎	◎	—	—	学期に2回実施	定期テスト	—	◎	◎	◎	定期考査	実習	◎	—	◎	◎	長期休業中に実施
①知識・技能	園芸や社会動物が人の健康にもたらす効用の体験や生物を活用した学習を通して人の発達や健康についての基礎的な知識と技術を体系的、系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。																																																				
②思考・判断・表現	園芸や動物とのふれあいや飼育が健康管理増進につながるよう発展させ、生物活用に関する課題を発見し、科学的根拠などに基づいて創造的に解決している。																																																				
③主体的に取り組む態度	生物活用について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。																																																				
評価方法\観点	①	②	③	④																																																	
学習態度	◎	◎	◎	◎	振り返りレポート																																																
ノート提出	◎	◎	—	—	学期に2回実施																																																
定期テスト	—	◎	◎	◎	定期考査																																																
実習	◎	—	◎	◎	長期休業中に実施																																																
履修上の注意	○見学や体験実習(ドッグトレーナー講習)の際は、必ずレポート提出を行います。																																																				

学期	学 習 内 容	時 数	学 習 の ね ら い	学 習 活 動 (評 価 方 法)
1 学期	生物活用の意義と役割 1. 生物活用の意義と役割 1) 生物活用とは何か 2) 生物活用の大切さ 3) 私たちの暮らしと生物活用 2. 園芸作物の栽培と活用 1) 私たちの暮らしと園芸 2) 植物・園芸がもたらす効用 3) 植物・園芸の活用 4) 植物を扱うさいの留意点 3. 動物の飼育と活用 1) 私たちの暮らしと動物 2) 動物がもたらす効用 3) 動物の活用 4) 動物を扱うさいの留意点	12	・生物活用とは何か、社会の状況と学習の意味をとらえ、植物や動物が福祉的・療法的にかかわることの重要性を学ぶ。 ・動物や植物のかかわりから得られる効用について広く生物活用の役割を学ぶ。 ・園芸（草花・野菜・花木栽培）全般が日々の暮らしにどのように関わっているかについて学び、衣食住以外の分野での活用について学ぶ。 ・動物を活用した活動について学ぶ。	評価は、定期テスト及び授業態度にも重点を置き評価する。 【学習状況観察】 【ワークシート】 【定期考査】 【自己評価】
2 学期	生物を活用した療法 1. 生物を活用した療法 1) 生物を活用した療法とは 2) 植物を治療に活用する 3) 動物を治療に活用する 2. 園芸療法 1) 園芸療法とは 2) 世界や日本における園芸療法の実際 3) プログラムを考える 3. 動物介在療法 1) 動物介在療法とは 2) 世界や日本における動物介在療法の実際 3) プログラムを考える	13	生物を活用した療法の具体的な内容を理解する。国際社会における海外と日本の療法の在り方について知る。園芸療法について具体的に学ぶ。園芸療法についてその実践例を読み取る。動物介在療法について具体的に学びその実践例を読み取る。活用できる犬種や動物の特性と療法とのかかわりあいを学ぶ。	評価は、定期テスト及び授業態度にも重点を置き評価する。また、外部講師による講演や実際に作業療法の体験に取り組み、取り組む姿勢や体験に基づいたレポートなども併せて評価する。 【学習状況観察】 【ワークシート】 【定期考査】 【自己評価】
3 学期	園芸作物の栽培と活用 1. 草花の栽培と活用 1) 草花の種類と特性 2) 園芸デザイン 3) 花壇の活用と管理 4) フラワーデザイン 5) 室内園芸装飾 6) 地域緑化、都市緑化 7) バリアフリーとユニバーサルデザイン 2. 野菜・ハーブの栽培と活用 1) 野菜の種類と特性 2) 野菜の栽培 3) 野菜の加工・利用 4) ハーブの種類と特性 5) ハーブの栽培 6) コンテナ栽培 7) キッチンガーデン	10	園芸療法全般における作業の実践に取り組む。室内装飾やフラワーデザインなどの多くの実践例を実際に観察したり栽培や制作に取り組むことによってより深く理解を重ねる。	評価は、定期テスト及び授業態度にも重点を置き評価する。 【学習状況観察】 【ワークシート】 【定期考査】 【自己評価】
		35		